

経口薬飲みやすいゼリー剤

分離包装で品質維持

モリモト医薬

製薬ベンチャーのモリモト医薬(大阪府吹田市、盛本修司社長)は1つの袋に薬と服用補助のゲルを分離包装した新型ゼリー剤を開発した。飲みやすいゼリー剤は幼児や高齢者の潜在需要が大きい

が、水分を多く含むと医薬品の品質を維持するのが難しい。新型は分離包装により解決した。第一三共などと製品化に着手しており、3年以内の発売を目指す。

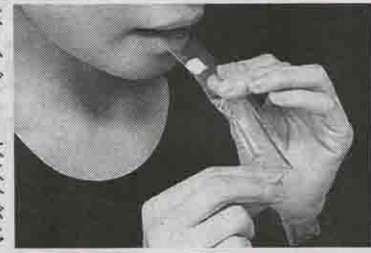
細長い筒状の袋を3カ所に区切り、一端にオプラーとでくるんだ薬、中央にゲルを充填する。服用時は薬が入った側を口

に入れ、ゲル部分を指で押すと、ゲルと有効成分を一緒に飲める。

輸送・保管時は三つ折りにしておけば、衝撃などで袋が破れる恐れはないという。原則、経口投

与の全医薬品に対応できゼリー剤は幼児や高齢者でも服用しやすく、誤って気管に入る危険性も低いとされる。ただ粉末や錠剤、カプセル剤と異

なり、ゼリーは水分が多いため、医薬品の化合物の分子が崩れて品質が変



薬が入ったカ所を先に口に含み、ゲルを指で押し出して服用

わりやすい。このため製品化が難しく、ゼリー剤の医療用医薬品は一部にとどまっていた。

モリモト医薬は複数の製薬大手と新型ゼリー剤の仕組みを使った医薬品の共同開発に乗り出しており、3年以内に製造販

売の承認取得を目指す。同社はこの分野で52005年に設立。医薬品製造機器の販売や日本に6年以内に100億円程度の売上高を見込む。同社は武田薬品工業の「ンサルテインク」などを手がける。研究者だった盛本社長が

の製薬会社の中国進出に